

週刊朝日MOOK

歯科医選びの決定版!

完全保存版

Q&Aでわかる

いい歯医者

2012

歯科の疑問446に Q&Aですぐに回答!

むし歯/歯の根と神経/歯周病/さし歯・入れ歯/インプラント
おとなの歯の矯正/子どもの歯の矯正/子どもの歯/歯の色(審美歯科)
歯の予防・ケア/治療費/口臭/あごの関節/意外な悩み

専門医がいる 歯科診療所・大学病院リスト 全国2081

保存/補綴/歯周病/歯科矯正/小児歯科
専門医名、卒業年、見積りまで明らかに

●巻頭特集

名医が語る「いい歯医者」の選び方

小宮山彌太郎歯科医師(ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター)
熊谷崇歯科医師(日吉歯科診療所) 与五沢文夫歯科医師(よごさわ歯科矯正)
日本有数のベテラン歯科医師が語る「名医」の条件とは?!

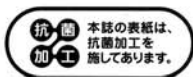
●特集

異常がないのに痛い! 増える「歯科心身症」

密着ルポ・インプラント治療がきっかけで舌痛症になった患者の闘病体験



本誌は収益の一部を
日本の対がん活動のために
寄付します



おとなの歯の矯正

大人になってから歯科矯正治療を始める人が増えています。子どもに比べると限界もありますが、大人だからこそその利点もあります。きれいな歯並びは、健康的な生活を送るためにも大切です。



歯科矯正治療は、大人になっても決して遅くはない

歯の矯正治療は、もともと10代で受ける人が圧倒的に多く、子どものためのものでした。それが近年、大人になつてから治療をする人が増えています。昭和大学歯科病院（東京）矯正歯科では、30歳以上の初診患者がこの10年で4割以上増加しています。

子どもと大人の矯正治療は、どこが異なるのでしょうか。大人は子どものように、あごの成長を利用した治療ができないため、治療効果に限界もあります。また、歯は加齢とともに動くスピードが遅くなったり、逆に歯周病が進行して簡単に動いてしまったりとさまざまです。さらに、むし歯などで歯を失っている、通常とは異なる歯の動かし方をせざるを得ないこともあるので、その点からも時間が長くなる傾向があります。

しかし大人の矯正治療は「利点も大きい」と、同院（東京）矯正歯科教授の横宏太郎歯科医師は話します。

「本人自ら『治療したい』『きれいになりたい』という意思をもっているため、効果が確実に出やすいのです」子どもより治療をスムーズに進めやすい

矯正治療は丁寧な歯みがきをする、取り外し式の装置を指示通りにつける、食べ物に気をつけるなど、自己管理が欠かせません。また、長期におよぶ治療の間、定期的に通院しなければなりません。大人の場合、自分の意思で始めているため、こうしたことも熱心に取り組む人が多く、治療がスムーズにいきやすいのです。

そして、「治療の意義も大きい」と横歯科医師は続けます。「当院の補綴歯科で、入れ歯を作りにくい患者さんの口腔内を調査したところ、すべて若いころに矯正治療をおけば問題なかった人たちでした。この結果に私自身、矯正治療の意義を大きく感じたのです」

歯を支える骨がずれているために、かみ合わせに合った入れ歯が作りにくく、入れ歯を入れても満足にかむことがむずかしく、長持ちしないのです。

また、出っ歯（上顎前突）や受け口（下顎前突）で上あごと下あごのずれの程度が大きい、または歯をかみ合わせるときに上下の前歯にすき間ができる開咬だと、食べ物を前歯でかみ切ることができません。この場合、発音が不明瞭になることもあります。矯正治療は、こうした機能を改善することにもつながります。どう矯正歯科（横浜市）院長の堂信夫歯科医師は話します。

「40代の上顎前突だったある患者さんは、上下のあごのずれが大きく、下の歯が上の歯ぐきにあたっていました。治療が進んでずれが直ってきたら『先生、前歯でおそぼ



30代で矯正治療を始めメンテナンスに訪れた男性（昭和大学歯科病院で）。

がかみ切れたのです」と涙を流して喜んでいました。機能的な問題がある患者さんにとって、矯正治療の意義は大きく、大人になつてからでも決して遅くはないのです」

ただし、矯

正治療は簡単には踏み切れないものです。自費診療となるので治療費の負担が大きく、大人の場合、一般的に歯を動かすための矯正装置をつけている期間が約2〜3年。その後も、動かした歯を安定させるための保定装置を同程度の期間つけます。

歯を抜かないで矯正するとバランスが悪くなる

さらに子どものようにあごの成長を利用できないため、抜歯をする可能性が高くなります。星歯科矯正（相模原市）院長の星隆夫歯科医師はこう話します。

「歯並びがデコボコするのは、あごの大きさに比べて歯が大きかったために、からだに順応して歯をデコボコに並べたのです。あごと歯のバランスをとるために歯を抜くのは一つの解決策です。歯を抜かないで治療してもバランスが悪くなるだけで、治療後に元に戻ったり、あごに並びきれなかった分が前に出たり、歯ぐきが下がったり、さまざまな問題が出てきます」

ですから、「歯を抜かない」ことを売りにしている歯科医院は注意が必要です。歯を抜きたくない人は、抜歯をした場合としなかった場合の歯並びや口もとを矯正専門の歯科医師に示してもらってから、判断しましょう。

矯正治療は、歯周組織に問題がなければ、何歳でも受けられます。外科手術との併用が必要なこともあります。受け口や出っ歯など不正咬合（歯並びやかみ合わせが悪いこと）の種類によって治療できないということがあります。気になっている人は一度、矯正専門の歯科医院で相談してみるといいでしょう。ライター・中寺曉子

Q

195

上下の前歯にすき間があつて めん類をかみ切れない

A 「開咬」という状態です。矯正で治療できますが、手術が必要なことも

あごを閉じて上下の歯をかんでも、前歯がかみ合わずに、上下の前歯の間にすき間ができてしまう状態を開咬といいます。のみ込むときに舌で前歯を押ししたり、上下の前歯の間に舌を入れたりする癖によつて起こりやすい不正咬合です。また、前歯だけでなく、唇も開いた状態になることがあります。

開咬だと、前歯でものをかむことができないほか、「サ行」や「タ行」を発音しづらくなります。

開咬は大人でも矯正装置だけで治療できますが、程度によってはあごの骨を切る手術が必要でした。ただ近年は、あご

治療前



治療後



上下の歯をかんでも、前歯の間にすき間ができてしまう状態。めん類などを前歯でかみ切ることができません（星歯科矯正提供）。

の骨にチタン製の「アンカー」という装置を埋め込む「インプラント矯正」という方法によつて、手術せずに治療する例も出てきました。本来、矯正装置だけでは、奥歯を押し下げることができませんが、「アンカー」を固定源として奥歯を押し下げること、前後の歯の高さを調整できるようにしたのです。ただしアンカーを埋め込む場所がずれると歯の神経に影響を及ぼすこともあり、治療には経験と技術が必要です。

また、開咬で問題となるのは、治療後のあと戻りです。開咬が治ってもその原因となる舌の癖が改善されていなければ、またもと通りになってしまう。

このため、「口腔機能療法」による舌の訓練も必要です。

Q 217

Q

203

歯を抜きたくくない！

A 抜かずに矯正すると口もとが前に出っ張ってしまうことがあります

歯を抜くかどうかは、歯のデコボコの量、唇の形などから総合的に判断します。成長期の子どもの場合、あごの成長発育を利用してあごを拡大する方法がありますが、成長期が終わると、あごを拡大するのはむずかしくなり、内側に歯がおさまりきれない可能性が高くなります。

そもそも、デコボコの歯並びは、あごの大きさに対して歯が大きいために起こります。ですから、抜歯をして歯を動かすすき間をつくる必要があるのです。抜歯をせずに治療すると、デコボコだった歯並びは整っても、無理やりおさめようとしたために、口もとが前に出っ張ってしまうこともあるのです。治療後しばらく

保定治療後



治療終了から3年後



歯を抜かずに無理に矯正治療をすると、治療前よりも歯ぐきが下がってしまうこともあります（星歯科矯正提供）。

くは問題がなくても、将来的に口もとが前に出てくる可能性もあります。また、土台の骨を越えて外側に歯が並ぶことになり、歯ぐきが下がることもあります。つまり矯正治療によつて、歯周病の状態をつくりだしてしまうのです。大人で歯を抜かなくていいのは、もともと歯の本数が少なかったり、歯が抜けていて、なかつたりするケースがほとんどです。欧米では、歯を抜かない場合が多いですが、それは日本人に比べて上あごと下あごの奥行きが長いから、歯の並ぶスペースに余裕があるからです。骨格や歯の生え方は人それぞれ。すべての人が抜かなくてすむことは、ありません。ホームページなどで「絶対歯を抜かない治療」とうたっている矯正歯科医院には注意が必要です。

おとなの歯の矯正